

佐賀市 46 歴史探訪

くぼいずみまち まがいぶつ 久保泉町の磨崖仏

磨崖仏といえば、大分県臼杵市の国宝「臼杵磨崖仏」や佐賀県唐津市相知町の県指定史跡「^{うどの}鶴殿石仏群」などが有名ですが、この磨崖仏が佐賀市にもあることをご存じでしょうか。今回は久保泉町にある磨崖仏「^{にょいりん}如意輪^{かんのんちようぞう}観音彫像」をご紹介します。

磨崖仏は、山麓の岩肌に彫られた仏教に関係のある彫像の総称で、九州で盛んに造られるようになったのは平安時代以降のことです。また、その中には修験道や民間信仰から生まれたものも多くあり、このため谷奥などの人目につきにくい場所に造られ、彫られた仏像の組み合わせにも寺院の本尊などとは異なった特殊なものも見受けられます。

久保泉町の如意輪観音彫像も同様に、川久保字上分一の山深い谷筋にある大きな岩に彫られています。半肉彫の如意輪観音の半伽座像は、首を右下に傾け、右足を曲げ、左足は立膝にして、滝の上に座するような姿を表現しています。この彫像の作者や正確な造立年代は分かりませんが、一般的に広く各地で如意輪観音の造像が見られるのは江戸時代中期以降であるといわれていることから、この彫像も江戸時代中期以降に造られたものではないかと推測されます。

如意輪観音はすべての生き物の苦しみを取り去り、願いを叶えてくれる仏とされています。当時の人々は、この仏にどのような願いを込めていたのでしょうか。

一口メモ

如意輪観音彫像がある山の西側山麓に位置する大小野集落内には、佐賀市天然記念物である「大小野の石楠花」があります。毎年5月の開花時期には淡紅色の花を一面に咲かせます。如意輪観音彫像を見学される機会があれば、ここにも一度訪ねてみられてはいかがでしょうか。



▲如意輪観音彫像全景



▲如意輪観音彫像

